知っ得情報！

2026年
10月号

発行元
株式会社ピースワン
〒545-0051
大阪市阿倍野区旭町1-2-7
あべのメディックス11階
TEL：06-6631-0303
FAX：06-6631-0703

◆発言者が偏る会議のリスク◆

さて、あなたの会社の会議では、いつも同じ人ばかりが発言していることはありませんか？

◆ ――――――――――――――――――――――――――――― ◆
話すのはいつも同じ人…発言者が偏る会議のリスク
◆ ――――――――――――――――――――――――――――― ◆

数人の積極的な社員だけが意見を出し、残りのメンバーはうなずいて終わってしまう。
「他に意見はありませんか？」と聞いても、誰も手を挙げない。そのような会議は決して珍しくありません。

しかし、この状態が続くと、発言しない社員は次第に、
『きっと誰かが考えてくれる』
『とりあえず聞いていればいいか』
と思うようになり、自分で考える機会が減っていきます。

そうなると、会議が一部の人だけで考える場所になり、現場で感じている問題や改善案が経営側に届きにくくなる恐れがあります。ここで注意したいのは、原因を社員の積極性だけに求めないことです。
大切なのは、発言するかどうかを社員の性格や勇気に任せるのではなく、全員が考え、意見を出せるような会議の進め方をつくることです。
では、どのように会議を変えていけばよいのでしょうか。

ある企業では、会議を活性化させるために次のような取り組みを行なっているそうです。

■最初に1～2分、自分の考えをまとめる時間を設ける
■「何かありますか？」ではなく、一人ずつ順番に意見を聞く
■リーダーは最初に答えを言わず、最後に自分の考えを伝える
■会議の前に議題を共有し、自分の意見を考えてきてもらう
■発言された意見をすぐに否定せず、まずは受け止める
など。

重要なのは、【発言する人】と【聞く人】が固定されない会議にすることです。
最初は一言しか出なくても構いません。
毎回、自分で考えて言葉にする習慣が身につけば、自分から発言する社員も少しずつ増えていきます。
会議は、報告を聞くだけの場所ではなく、社員が考える力を育てる場所でもあります。
もし、発言者の偏りに悩んでいたら、まずは冒頭に1～2分、全員が考える時間を設けることから始めてみてはいかがでしょうか。

□■□――――――――――――――――――――――――
編集後記
――――――――――――――――――――――――□■□

今回は「発言者が偏る会議のリスク」をテーマにお伝えしました。

社員に積極性を求める前に、まずは意見を出しやすい会議になっているかを振り返ってみることも大切ですね。

当社でも、「全員が発言しやすい場になっているか？」という視点で、会議の進め方を見直してみようと思いました。

最後までお読みいただきましてありがとうございます。
ご不明な点がございましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

ピースワン　保険　検索
【弊社ホームページ公開中！！】
https://www.peace-one.co.jp
弊社LINE公式アカウントです！→
お友達登録をよろしくお願いします